宮脇遺跡　第67地点

遺跡名	宮脇遺跡
よみがな	みやわきいせき
調査地点	第 67 地点
主な時代	平安時代（約 1,200～800 年前）
調査地	羽沢三丁目 1562 番 4 の一部
調査面積	499.17 ㎡のうち、約 315 ㎡
調査期間	令和５年５月 29 日～６月 13 日
調査内容	【確認された主な遺構】　平安時代竪穴住居跡４軒、溝跡３条、他 【出土した主な遺物】　須恵器、土師器、管状土製品 【概要】 宮脇遺跡は、権平川の流れによって形成された小支谷に面した台地上に立地し、諏訪の森や鶴馬諏訪神社の西側に広がっています。遺跡範囲の大部分で開発に伴う発掘調査が実施され、縄文時代、古墳時代、奈良時代～平安時代を主とした、多くの遺構・遺物が確認されています。 今回の調査では、平安時代の竪穴住居跡４軒、溝跡３条などが確認されました。平安時代の住居跡４軒のうち１軒では、焼けて炭になった木材が多く確認され、「焼失住居（しょうしつじゅうきょ）」と呼ばれる様相を示していました。同じ住居跡では、長さ約４cm、太さ約１cmで、中心に穴が開いた管状の土製品が、確認できた範囲で50個以上も固まって出土しました。管状土製品の中に通されていた縄がそのまま炭化して残っている部分が観察できることから、数珠つなぎにして装飾品として用いたものか、あるいは投網の末端に括られた小さな錘（おもり）であったのでしょうか。いずれにしても、このような出土は前例が少ないものです。

平安時代の竪穴住居跡（焼失住居）から、土器などの遺物と炭化した木材が出土している様子

今回の調査では、住居跡全体の４分の１程が確認されました。

焼失住居の調査の様子

密集して出土した炭化木材を踏んでしまわないよう、発掘の際の足の置き場にも神経を使いました。

宮脇遺跡　第67地点

焼失住居の床面上で、管状土製品が集中して出土した様子

この写真の下の面からも多数出土し、総数 50 点以上を数えました。

焼失住居から出土した鉄斧と須恵器の坏

宮脇遺跡の別地点では、鍛冶工房跡とみられる遺構も確認されています。

平安時代の竪穴住居跡の完掘した様子と、出土した須恵器の坏

この住居跡では、カマドの煙道部分の天井が崩落せずに残存していました。